

遠回り

第33号 目次

令和七年四月十日
認定NPO法人
ロシナンテス 発行

01 ピックアップ

P1,2.....スーダン渡航報告

02 スーダンだより

P3.....スーダン軍事衝突から2年

P4.....ソーラーランタンを寄贈

03 ザンビアだより

P5.....専門家とともに挑むザンビア母子保健事業

P6.....マザーシェルターのその後

P7,8.....結核事業／血圧計やマスクなどを寄贈

04 読み物

P9.....曇外蒼天：揺らぐ国際援助の現場

～USAID停止で何が起きたのか～

P10.....日々ツラツラ日記：ザンビア人は穏やか

P11,12.....コラム：医学生インターンが考察！

05 国内活動、イベント

P13.....『エンディングノート』相続・遺贈講座／
スナック路志南亭イベント／お料理会イベント

P14,15.....グローバルヘルス合同大会／健康博覧会
／北九州市の小中学校で18校で出前授業

06 事務局からのお知らせ

P16.....本人認証サービスの導入について

／SNS投稿「#ノーサイドアクション」企画

P17.....事務局だより

01 ピックアップ



2024年12月 スーダン渡航報告

昨年末、2023年4月の軍事衝突による退避以来初めて、理事長の川原がスーダンに渡航しました。現地の状況を把握し活動の準備を行うため、首都機能が移管された情勢が比較的安定しているポートスーダンを訪れました。



ポートスーダンの港

リバーナイル州に避難する現地スタッフのイプティサムや、ドバイで働いているゼインさんにも再会。彼らには渡航手続きや滞在中のサポートをお願いしました。ポートスーダンの街は、一見すると平穏です。しかし、勝手に写真を撮るようなことはできず、軍の施設は絶対に撮るなと注意され緊張する場面もありました。一方で、夜になると路上で楽しく歌う人々にも出会いました。

<スーダン保健省を訪問>

国際局の担当者によると、医薬品や医療機器の不足が深刻で、救急車もRSF奪われて足りないとのこと。日本からの支援を要請されており、どのような支援ができるか検討していきます。

<避難民キャンプを視察>

連邦人道支援局（HAC）、連邦保健省など5か所からの視察許可取得に大変苦労し、約2日を要しました。ポートスーダンのキャンプは、もとは専門学校があった場所で、現在は4,000人以上の避難民が生活していました。

水はぎりぎりの量、食事は1日1回で電気はなく、診療所もないため医療の提供が十分でない状況でした。



ポートスーダンのキャンプの様子
撮影が制限され、遠くからしか撮影できず

01 ピックアップ



ガダーレフ州シェリフ・ハサバツラ村の 村長ハサンさんと対談



今回はロシナンテスが活動していたガダーレフ州には行けませんでした。が、シェリフ・ハサバツラ村の村長ハサンさんがポートスーダンまで来てくださいました。ゼインさんの通訳のもと、村の状況を伺いました。

——村は今どうなっていますか？

「多くの避難民が村に来て大変です。特に水の確保が困難です。」

——ロシナンテスが作った井戸や診療所は機能していますか？

「井戸は機能していますが、避難民の増加により、水を汲むための行列が200メートルにもなっています。診療所に医者は1人いますが、1日に300人もの患者が訪れています。救急車もなく、ロバで患者を運んでいる状況です。」

——ロシナンテスが建設した学校はどのような状況ですか？

「今は学校としては機能していません。避難民のキャンプとして使われています。」

水と医療の支援が喫緊の課題であることが明確になりました。得られた情報をもとに、今後の活動を具体化していきます。
引き続きスーダンの人々にお心をお寄せいただければ幸いです。

02 スーダンだより



スーダン軍事衝突から2年

国軍とRSF(Rapid Support Forces：ダルフルの民兵組織を起源とする準軍事組織)による軍事衝突から4月15日で2年が経過します。国内外で避難する人々は2月末時点で1,200万人を超えています。

<国軍が主要都市を奪還>

今年1月、国軍はスーダンの主要都市メダニをRSFの支配から奪還しました。また、軍事衝突以来RSFの拠点となっていた首都ハルツームも、3月末国軍が奪還に成功したと宣言しました。しかしRSFは依然として、スーダン西部のダルフル地方の大半と、隣接するコルドファン地方の大半を支配しています。各地で断続的な戦闘が続いており、民間人の犠牲も増えています。

<8割の病院が機能不全に>

WHO（世界保健機関）によると、スーダン国内の医療施設への攻撃が2024年9月中旬までに108件確認されています。また、紛争の影響が深刻な地域では約80%の医療施設が、その他の地域の医療施設でも約45%が、ほとんど稼働していないか閉鎖されていると推定されています。

教育分野への影響も深刻です。スーダン国内の学齢期の児童の90%以上が教育を受けられていません。ロシナンテスの事業地の学校も再開ができておらず、避難民の避難場所となっています。

ロシナンテスは今後の支援として以下の活動を検討しています。

1. 救急車や医療機材の支援
2. 給水所の建設



シェリフ・ハサバツラ村の診療所
避難民の医師がボランティアで診療

02 スーダンだより



内戦が長引くスーダンに ソーラーランタンを寄贈

パナソニックホールディングス株式会社様よりご寄贈いただいたソーラーランタン504台を、スーダン村落部に届けました。

パナソニックホールディングス株式会社様は、無電化地域にあかりを届けることで、教育・医療・経済・安全などの課題解決に貢献することを目指し、長年にわたりソーラーランタンの寄贈プロジェクトを実施されています。



2022年から2023年にかけて、事業地の北コルドファン州の4つの村での配布を計画し、調整を進めていました。しかし、ソーラーランタンが無事に州都オベイドへ到着し、配布を目前に控えたタイミングで内戦が勃発。倉庫からランタンを運び出すことが難しくなりました。オベイドでは度々戦闘が起こり、民兵による略奪も相次いでいましたが、倉庫で無事保管することができたのは幸いでした。2024年11月、状況が落ち着いたタイミングを見計らい、車で2時間ほどの事業地に届けることができました。

ソーラーランタンは、7つの小中学校の夜間教室、3つの診療所、そして支援が必要な家庭へ配布されました。今後、ソーラーランタンがもたらした変化についても、ご報告できればと思います。



オムサマーマ村での配布

03 ザンビアだより



命をつなぐために 専門家とともに挑む母子保健事業

ザンビアで母子保健事業を開始してから、約5年が経ちました。事業の質をさらに高めるため、日本人専門家の受け入れを強化しています。専門家の皆さんには、技術指導に加え、多岐にわたる役割を担っていただいています。日本のやり方がそのまま通用するわけではないため、現地の人々との意見の違いを認め合い、互いが納得できる解決策をみつけるための粘り強さや、信頼関係を築く力も欠かせません。

約4カ月間滞在した助産師の長井菜摘さんも、当初は診療所スタッフの業務姿勢に違和感を抱いたそうです。「一つの命も失いたくない」という自身の思いと、「死」が日常化しているスタッフの意識に、大きなギャップがあったからです。長井さんは、1週間マザーシェルターに泊まり込み、対話を通じてスタッフの意識やスキルレベルの理解に努めました。限られた資源のなかで命を守る仕組みを作るには、現地の課題にじっくり向き合い、継続的にケアができる体制を整えていくことが重要だと私たちは考えています。

～助産師 長井さんが見たロシナンテスの活動～

第一印象は「ザンビアの母は強い」でした。ザンビアでは助産師は腰をさするでもなく、声をかけるでもなく、近くで見守ります。時が来たら助産師の「Push!」との掛け声のもと自力で出産。産婦の産む力と、胎児の生まれる力を信じて見守るザンビア式のお産に感動しました。



患者に寄り添う
助産師の長井さん

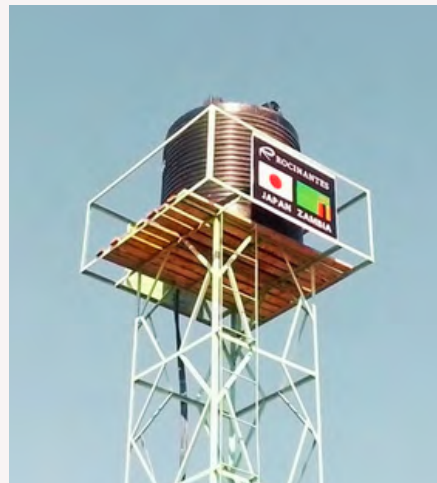
この国は周産期死亡率が高く、医療従事者も患者もある程度限界を 수용しているように見えることもありました。すべてのお産の安全を実現させるためには、医療機器や知識、技術の充実化とともに一人一人の意識の変容も大切なのではないかと感じています。

04 ザンビアだより



電気供給までの長い道のり... マザーシェルターのその後

2024年7月、ザンビア中央州チコンコメニ地域にマザーシェルターを建設しました。自宅出産や路上出産などが多くみられるこの地域で、診療所での安全な出産をサポートすることが目的でした。しかし、ベッドは利用されているものの、分娩室など主要な機能が使われていないませんでした。その原因は電気供給の遅れにありました。



＜なかなか開通しない電気＞

建設前に、電気供給は郡政府が行うことで合意していました。しかし電気を引くのに多額の資金が必要であると建設後に判明し、やむを得ずロシナンテスも一部の費用を負担し、ようやく今年2月に電気会社が動き始めました。

郡政府の対応を待つばかりでは事態が進まないため、ロシナンテスは、暫定措置として電気のジェネレーターを提供し、夜間の電気を供給しています。これにより、井戸のポンプが稼働し水が使えるようになります。分娩後のシャワーや滅菌、清掃に活用できるようになりました。その結果、今年1月には、マザーシェルターで初めての分娩が行われました。



マザーシェルターが地域の母子保健に寄与できるよう、引き続き関係機関との連携を強化していきます。

03 ザンビアだより



専門家による技術支援も 結核事業の進展

<即時検査に対応、装置を4台に増設>

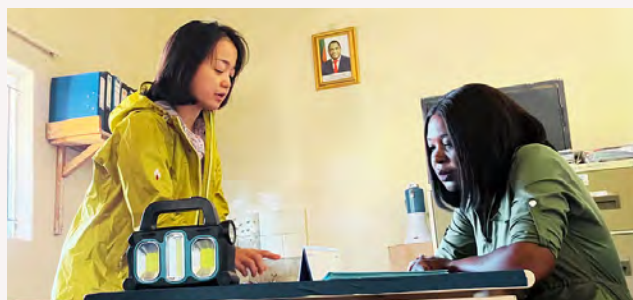
2023年ロシナンテスは、ポータブルX線装置を活用し、結核早期発見を目指す事業を開始しました。中央州チサンバ郡・チボンボ郡の4つの医療施設での1年間の試験導入を行い、その有効性が確認されたため、今年外務省の支援を受けて新たに3台を追加購入しました。

合同で行った
X線画像の読影研修



<現地人材の再研修と日本人医師によるサポート>

X線画像の読影研修を、診療所スタッフを集めて3日間合同で実施しました。合同で行ったことで施設間の交流が深まり、読影技術や診断精度についての意見交換も行うことができました。また、放射線技師を対象に装置の使用方法の再研修も行いました。



さらに2024年8月から約3か月間、日本で呼吸器科医として勤務する小川恵医師に滞在いただき、診断プロセスや患者管理の改善などをサポートいただきました。

<今後の事業展開に向けて>

ロシナンテス理事であり感染症専門医である高山義浩医師と、今年1月に事業改善について議論を行いました。現在各診療所では月2～4回のX線検査が実施されていますが、それ以外の日は装置が保管されています。「診療所での検査頻度や実施先を増やすべき」との助言をうけ、郡保健局とこの課題を共有しました。2025年度は検査回数を増やし、より多くの患者が必要な検査を受けられるよう体制を整える予定です。

03 ザンビアだより



血圧計・体組成計、N95マスクを医療施設へ寄贈

<血圧計・体組成計を寄贈>

エレコム株式会社様よりご寄贈いただいた血圧計50台と体組成計18台を、ザンビアの医療施設に導入しました。



妊娠中の健康管理では、適切な体重増加量の確認や、妊娠高血圧症候群などの高リスクなケースの健康管理が重要であり、血圧・体重・BMIの定期的な測定が不可欠です。また、結核治療においても、血圧や体重の測定が適切な診断と治療に役立ちます。しかし村落部の診療所では、資金不足により機器の設置が難しいのが現状です。そこで、ロシナンテスは事業地のあるチサンバ郡、チボンボ郡の必要な施設を選定し、寄贈を実施しました。これにより正確な測定が可能になり、より適切な治療が期待されています。

<結核感染を防ぐためN95マスクを導入>

株式会社モレーンコーポレーション様よりN95マスク960枚をご寄贈いただきました。

結核事業の実施により、医療施設を訪れる結核疑いの患者が増えています。待合室では他の患者と同じ空間で待機することが多いため、感染拡大のリスクが懸念されています。また一部の施設では換気が十分ではなく、停電時には扇風機も使えないため、感染リスクが高まります。



簡単にサイズを調整でき、使いやすい

郡保健局と施設が患者待合室の環境改善を行う予定ですが、それまでの間、このマスクを配布し、感染防止策を行っていきます。

04 雲外蒼天



揺らぐ国際援助の現場 ～USAID停止で何が起きたのか～

2025年1月20日にトランプ政権が発足してから、打ち出される政策に世界は大きく混乱しています。なかでも、国際援助に関わる組織や活動現場に多大なる影響を与える政策が、**対外予算の大幅削減とUSAID（アメリカ合衆国国際開発庁）の実質廃止**です。

USAIDの予算はアメリカの対外支出の半分以上を占め、その大部分は人道支援に使用されています。アメリカの人道支援における支出額は世界最大です。**1月27日、アメリカ政府は対外援助のほとんどを最短で90日間停止すると発表。また、USAIDが結ぶ対外支援契約の約9割を打ち切る方針**であることも明らかになりました。これにより、すでに多くのプロジェクトが中止しています。**国際保健の専門家は、ワクチンや薬の提供だけでなく、水や衛生支援も停滞することで、世界に感染症が拡大する恐れがあると警鐘を鳴らしています。**

USAIDの機能停止による影響は、ロシナンテスのザンビアでの活動にも及ぶ可能性があります。結核の治療薬はUSAIDの支援を受け供給されています。ザンビア保健省によれば、19カ月分の治療薬の備蓄がありますが、今後の影響が懸念されます。またUSAIDの援助停止により、喀痰検査用カートリッジ(試薬)の購入資金も不足しています。

アメリカという一国が援助を停止しただけで、世界各地のプロジェクトが次々と凍結に追い込まれました。この事実は、**国際援助の現場がいかに大国からの資金に頼りきっていたか、その脆さを痛感させるできごととなりました。**世界人道支援報告書によると、2023年の人道支援分野への資金拠出総額は434億米ドルに上り、そのうち8割以上は各国政府や欧州連合（EU）機関からのものでした。しかし、民間の寄付などからの拠出も、73億米ドルと一定の割合を占めています。持続可能な国際援助を実現するためには、**各国政府の資金に頼るだけでなく、こうした民間からの支援をさらに強化していくことが求められるのではないのでしょうか。**

04 日々ツラツラ日記



ザンビア事務所で1ヶ月間、一緒に仕事をさせていただきました助産師の鈴木順子と申します。

私にとって、今回が人生三度目のザンビア渡航。三回目ということで、入国審査での現地語での挨拶はバッチリ！入国もスムーズにいくと思ったのですが、ビジネスビザで滞在できる日数が、以前の渡航により減ってしまっていることが発覚。対応してくれた女性の審査官に「この前の入国の際もややこしかったわよね、あなた。覚えているわよ」と言われ、なんだかお互い笑ってしまいました。その後は、検疫官にスーツケースを開けるように指示され、中に入っていた日本食がなぜ必要なのかと質問されました。私が「日本人の友だちが必要って言うから～、私はシマ（ザンビアの現地料理）が好きだから不要なんだけどね」と答えると、自国の料理を好きと言われたのが嬉しかったのか、検疫官の顔が笑顔になり、それ以上質問されずに終わりました（良いのか悪いのかわかりませんが）。このような感じで、ザンビア人は全体的に穏やかな人が多いイメージです。

ロシナンテスのように地域保健活動を行ううえで、現地の人々の特性や生活を知ることとはとても大事なと感じます。皆さんもザンビアに来る機会があれば、是非シマを堪能して、現地語でのザンビア人との交流を楽しんでください！



左の白いものがザンビアの主食シマ



04 コラム① 医学生インターンが考察！



「日本の母子保健の歩み – アフリカに活かせる知恵とは」

日本の乳児死亡率は、2021年時点で1,000人あたりわずか2人。一方、ザンビアをはじめとするサハラ以南のアフリカでは、乳児死亡率は1,000人あたり50人前後と非常に高い水準です。実はかつての日本も今のアフリカ諸国と同じでしたが、公衆衛生の向上や母子保健制度の整備により、乳児死亡率は急激に改善しました。



自宅出産から施設出産へ

現在、日本では出産の98.5%が病院や診療所などの医療施設で行われています。しかし1950年代までは、自宅出産が全体の95.4%を占めていました。1960年代に入ると自宅出産は急速に減り、同時に乳児死亡率も大きく改善していきました。この変化の背景には、1961年の国民皆保険制度の導入があります。このことが「専門的な訓練を受けた者の立ち合いの下での出産」を可能にし、母子の健康に大きく寄与したのです。

助産婦の登場

戦後、「産婆」は「助産婦」へと改称され、資格取得が必須となりました。そして厚生労働省は保健指導を強化し、以下の取り組みを進めました。

- ・母子健康手帳の活用促進
- ・保健所での健康診断の推進
- ・医療施設での出産の奨励



助産婦は、地域の人々に寄り添ったケアを提供していきました。

母子健康手帳の登場

妊婦の把握と健診促進を目的として、1942年に世界で初めて「妊産婦手帳」の配布が開始されます。手帳を持つと、無料の妊婦健診や予防接種を受けられるほか、戦時下では食糧や物資の配給も受けられる仕組みになっていました。このように妊婦にとってのメリットが明確だったため、広く普及したようです。

04 コラム② 医学生インターンが考察！



1948年には児童福祉法の施行に伴い「母子健康手帳」に改称され、妊産婦だけでなく乳幼児の保健指導も含む内容に機能が拡大されました。現在では、約50か国で母子手帳が活用されています。母子健康手帳は、母親の健康知識を高め、妊娠・出産・産後の行動改善にも大きく貢献しているのです。

日本の母子保健の歩みを活かして

このように、日本の母子保健サービスは医療の充実と革新的な公衆衛生政策によって発展してきました。途上国では、妊産婦と赤ちゃんを取り巻く環境が先進国とは大きく異なりますが、「助産師の活躍」や「母子健康手帳の活用」など日本を参考できる点は多くあります。

例えば、アフリカには地域に根付く伝統的な助産師が存在します。この伝統を尊重しつつ、近代的な医療知識を持つ専門職へと育成することが、現実的な解決策の一つかもしれません。ザンビアでは、医療施設での分娩を促進するため、伝統的な産婆による助産を違法としました。しかし彼らの多くは今「ヘルスボランティア（SMAG）」として研修を受け、母子の健康を見守る役割を担っています。SMAGは医療従事者が圧倒的に不足するこの国で欠かせない存在です。

一方ザンビアでも母子健康手帳の普及が進んでいます。しかし日本と異なり医療人材が不足しているため、記録作業に時間がかかる、健診データが活用できるレベルで管理されていないといった課題もみられます。そこでロシナンテスでは、スマートフォンを活用して母子情報を効率的に記録するシステムの活用を模索しています。医療人材が限られているアフリカでは、デジタル技術やICTの活用が医療の質を向上させる大きなかぎとなる可能性があります。

日本の成功事例を参考にし、それぞれの地域に適した形で母子保健を支援していくことで、より多くの命が守られることを期待したいです。

05 国内活動、イベント



イベント(北九州・東京)にぜひご参加ください

■無料■『エンディングノートの書き方・活かし方』

～～自分らしい相続・遺贈講座～～@北九州

相続・遺言・遺贈寄付についても学ぶ講座です。

参加者にはエンディングノートをプレゼント！

- ・日時：2025年5月15日(木) 16:00-18:00 (15:40受付開始)
- ・場所：小倉昭和館 (福岡県北九州市小倉北区魚町4丁目2-9)
- ・講師：齋藤弘道様 (遺贈寄附推進機構株式会社)
- ・登壇：川原尚行 (認定NPO法人ロシナンテス)
- ・参加費：無料
- ・詳細・申込：[お申し込みはこちらから](#)



自分の思いや
大切な情報を整理

■ご支援者様限定■スナック路志南亭（ろしなんて）@東京

ロシナンテス職員がスナックの1日店長を務めます！

お飲み物片手に、楽しい時間をすごしませんか？【定員30名】

- ・日時：2025年4月30日(水)19:00-22:00 (コアタイム19:30-21:00)
- ・場所：KOREWOKINI flat
(東京都中央区銀座3丁目14-8 片桐ビルV302)
- ・参加費：チャージ (600円) + ワンドリンク (500円～)
- ・詳細・申込：[お申し込みはこちらから](#)



■ご支援者様限定■ロシナンテお料理会@北九州

ザンビアの伝統料理を一緒に作るイベント！【定員10名】

- ・日時：2025年5月17日(土) 11:00-15:00 (10:50 受付開始)
- ・場所：ココクル平野くるくるスペース
(福岡県北九州市八幡東区平野1丁目3番2号)
- ・参加費：無料／・持ち物：エプロン、ハンドタオル
- ・詳細・申込：[お申し込みはこちらから](#)



05 国内活動、イベント

▶▶ グローバルヘルス合同大会に参加しました

ロシナンテスは、2024年11月16日～17日に沖縄県で開催された「2024年グローバルヘルス合同大会」に参加しました。この大会は、1999年に「21世紀の熱帯医学と国際保健医療協力」をテーマに、日本熱帯医学会大会と日本国際保健医療学会が共同開催した学会をきっかけに、全国各地で実施されているものです。



ロシナンテスは、ザンビアで行うポータブルX線を活用した結核事業について発表し、保健医療の専門家と意見交換を行いました。

2022年にザンビアを訪れた喜多悦子先生が座長を務めたシンポジウム「国際保健医療協力と新技術の展開」では、理事長の川原が登壇しました。新しい技術を国際保健にどう活かしていくかについて、5名の登壇者が事例を紹介し、意見交換を行いました。川原は、日本では導入が難しいICTを活用した医療体制をザンビアで構築し、日本に逆輸入する可能性について言及しました。シンポジウム終了後には、多くの医師や医学生から質問が寄せられ、アフリカなどでの国際保健医療への関心の高さが感じられました。

また会場内では、「ザンビア中央州におけるポータブルX線装置導入による結核早期発見と医療アクセスの改善」と題したポスター発表も行いました。初めての学会発表でしたが、多くの方に活動を知っていただく貴重な機会をつくることができました。

05 国内活動、イベント

健康博覧会に出展しました

2月26日～28日の間、東京ビッグサイトで開催された「健康博覧会2025」に出展しました。「健康博覧会」は「ひと・社会・地球の健康を考える」をテーマに健康に関連する製品やサービスが一堂に会する、国内最大級のビジネストレードショーです。



SDGS達成に向けて活動する団体として、無償でブースをご提供をいただきました。当日はボランティアの皆さまにご協力いただき、寄付型自動販売機や古本募金など、企業や団体が取り組めるさまざまな支援方法をご紹介します。

北九州市の小中学校で18校で出前授業を実施

ロシナンテスは学校と連携し、北九州市の子どもたちにグローバルな視野を育む学びの場を提供しています。今年度も「アフリカから学ぶ国際教育プロジェクト」の一環として北九州市の公立学校で出前授業を行いました。この活動は、企業版ふるさと納税による北九州市からの補助金で実施されています。



授業はアフリカに滞在経験のある講師が担当し、アフリカの生活や文化、NPOの活動を教材にしています。今年度は17校の小学校に加え、新たに1校の中学校でも授業を実施することができました。今後もロシナンテスは、子どもたちが世界を身近に感じられる学びの場を提供していきます。

06 事務局からのお知らせ

▶▶ 本人認証サービス(3Dセキュア)の導入 [クレジットカードでのご寄付決済時]



クレジットカードの不正利用被害の増加に伴い、ロシナンテスでは、ご支援者さまに安心・安全にご利用いただけるよう本人認証サービス「3Dセキュア2.0」を導入しました。

本人認証サービス(3Dセキュア)とは

ご寄付のクレジットカード決済時に、ワンタイムパスワードなどでご本人様を確認する追加の認証システム。

クレジットカードの不正利用被害の対策として、すべてのECサイト事業者に本人認証サービス(3Dセキュア)の導入が義務付けられました。これにより不正利用を未然に防止することができます。

※ご利用のクレジットカードの本人認証サービス(3Dセキュア)設定および認証の方法は、各カード発行会社により異なります。詳細はご利用の各カード発行会社にお問い合わせください。

表示イメージ
VISAカードの場合

▶▶ SNS投稿で社会貢献できるキャンペーン 「#ノーサイドアクション」

Instagramへ投稿すると
50円がスーダンへの支援に

期間：2025年4月4日～5月16日

手と手を合わせたシーンを撮影し「#ノーサイドアクション」のハッシュタグをつけて投稿すると、1投稿50円がロシナンテスが活動を行うスーダンへの支援になるキャンペーンです。詳しくはこちらから



06 事務局からのお知らせ

事務局日より

こんにちは、ロシナンテスの立花です。
いつもあたたかいご支援を
ありがとうございます。



ここ数日ザンビア出張に向けて荷物の準備をしています。駐在職員からリクエストのあったインスタント焼きそばやのり、日本茶のほか、わかめスープや和風パスタのもと、飴細工など、楽しくなって色々買いこんでしまいました。現地スタッフには柿ピーが好評ということで、色々な味の柿ピーも揃えました。わさび味、カレー味、うどん味.....さくら味のチョコがコーティングされているものまで！味によってどのような反応が見られるか今から楽しみです。

今回の出張では、初めて海外に行く職員も一緒に向かう予定です。準備段階から緊張が伝わってきていますが、彼女の新鮮な目で見えるザンビアを皆さまにもお届けできるよう、色々発信していきたいと思います。



ザンビアのドリンクは
ジンジャーの味が強めで
ピリピリします



ロシナンテスのザンビア事務所には
かわいいキリンがいます！